

フラメンコの樹

第7回

鈴木 真澄 (バイラオーラ)

Masumi Suzuki / 1958年中野生まれ。6歳でバレエ。12歳で新体操。15歳フラメンコ。18歳渡西。21歳結婚。22歳雄輔出産。23歳麻衣出産。25歳教室開設。26歳離婚。34歳雄輔渡西。36歳麻衣渡西。42歳会社設立。50歳初孫。60歳フラメンコ。俳句入門。



©GRASPANY

「こんな日本だから フラメンコじゃない?」

どうしてフラメンコやってるのかなあ? って時々思う。

人は何か役目があつて生まれてくる。なんて言う人や、物事のすべてが人生のすべては必然、なんて言う人もいます。

それで、自身の周りで起こっていることを考えてみたら……。

異常気象や自然災害が至るところで起こり、新型コロナウィルスの世界的広がり、これらは全部地球温暖化の影響じゃないの? 地球規模で考えたら、人類の利便さばかりを追いかけてきた結果が招いたものじゃない?

苦しい時にいつもフラメンコに助けら

れてきた私は、こんな時こそフラメンコだ!なんて考えちゃいます。よくハングリー精神とか、痛めつけられて強くなるとか言われますが、問題はいつも至るところに転がっています。

大人になった自分を想像

もできず、輝く未来を夢見ていた若い頃のままだに生きてこられた人はそんなにいないでしょう。いきなり現実に戻ると、本番で踊ってすべ

て納得いくようにできたことあ

ったかなあ? 15才から47年もフラメンコやってるのにですよ。いつだって、どんな場所だって精一杯踊るんですが、今日はよく出来た! なんてこと一度もないです。

若い頃は難しい振りが間違えずに出来た! 足がよく動いた! っで喜んでました! そんなの年取ったらあまり意味がないことに気づくんです。何歳まで踊れるかわからないけれど、死ぬまでできるのがフラメンコって思えるようになって、そこで何が大事かが見えてくる。間違えたり、迷ったりすることもすべて積み重ねるミルフィーユの一枚になる。きちんと並べられたもの、うわべだけのものなんて面白くない。太い糸、細い糸、きれいな色、汚い色、つやつや、ゴワゴワ。さまざまな糸が絡みあっているからこそ出てくる深みや味わい……そんな人間味のあ

るフラメンコがいまでは好き。

本番では自分の思い、プラスギターや唄の方の思いも乗っかってくる。やさしく軽やかに踊ろうと思ってもギターに激情を感じたらこちらも激しくなるし、なめらかなメロディには心も動きもなめらかになってくる。後ろから羽交い締めされるような唄には感覚もギョツとなるし、あたたかく包み込んでくれるような唄なら晴れやかにのびのびと踊れる。自分が積み重ねて織り込んできた年月と、その瞬間瞬間に感じる思いはまさに時間と空間が交わるところ。

みんなで一つになれて楽しかったねえ!

それがフラメンコ!

嗚呼〜!

でも、そんなにいつも気持ちよく交われないから、まだ修行が足りないなあと思ってしまう。でもね、フラメンコはもともと苦境の中から生まれたんじゃない? だから苦しんで悲しんで悩んでもがいてもいいかなあと。まだまだいくら苦しんでも本家本元の人たちが長い歴史の中で積み重ねてきた苦しみにには到底行きつかないけれど、私たち日本人だって違う意味の苦しみは山ほど経験していますよね。一人一人のレベルで考えても貧乏比べ、不幸比べ……それなら俺だって、私だってって思える。

そう、それが原点ならばみんなフラメンコですよ!

一本筋通して、地に足つけて、降りかかってくるもの飲みこんで立ち向かう。

こんな世の中には、こんなフラメンコこそが必要なんじゃないか……そう思えてきたこの頃です。